
キスふたつ/沖神

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キスふたつ／沖神

【Nコード】

N6915A

【作者名】

深海

【あらすじ】

買い物帰りの神楽。 沖田の足にひっかかり転んでしまふ。

新八に頼まれた買い物を済ませ、万事屋へと紙袋を抱えて人混みを歩いていた神楽。

「うおっ！」

何かに足をひっかけ買った物を全てぶちまけ転んでしまった。

「なんなのヨ！」

起き上がり地面に散らばる物を拾うよりも先に後ろを振り返ると、沖田が足を伸ばしてベンチに腰掛け眠っていた。その姿を睨みつけ飛びかかる神楽。沖田の両側に足を置いて立花、胸ぐらを掴んだ。

「どーしてくれるネ！ 全部台無しアル！ 弁償するヨロシ！」

ガクガクと揺さぶりふざけたアイマスクをはぎとると、寝惚け眼の沖田が迷惑そうに神楽を見上げた。

「一体どうしたってんだイ人の安眠邪魔するたア、ろくな教育受けてねーだろ」

「なーにが安眠だ！ 永眠にしてやるーかコラ。てめーの短い足につまづいて全てぶちまけたネ！」

沖田は、チラリと道に転がった物を見ると、神楽の首に手をかけて引き寄せキスをした。途端に真っ赤に染まる神楽の顔。

「そりゃ悪かったなこれで勘弁しろイ」

「なっ、な……」

沖田は巧く頭が回らない神楽の手からアイマスクを取って装着し、腕を組んで再び眠りについた。

「ふ、ふざけるな！ キ……キス一つで済ませようなんて許さないネ！」

なおもくっつかかるが、何の反応もしない沖田。神楽はその憎たらしい沖田の顔に、己のそれを寄せた。

「……仕方ないネ。キス二つで許してやるヨ」

そつと唇を触れさせると沖田から手を離し、落ちている物を手早く拾い集め足早に去っていった。神樂が真つ赤な顔で去ったあと、沖田の口元には笑みが浮かんでいた。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6915a/>

キスふたつ/沖神

2010年10月10日00時38分発行